

まんざく



特色ある大学教育支援 プログラムに採択される

申請代表者 片山 啓子

文部科学省が優れた教育活動を広く紹介・支援し、大学における教育の充実と活性化を目的に、平成十五年度より五年間実施される「特色ある大学教育支援プログラム」に幼児教育学科の表現発表会「にいみこどもフェスタ」が平成十六年度分として採択されました。全国の大学・短大から五百三十四件の申請があつたのに対し五十八件、中四国の短大としては本学だけの採択となりました。

採択の主な理由として「十四年間にわたりすべてオリジナル리티にこだわり、教育と地域貢献を通して学生のモチベーションや学習内容の向上を図っていること」「教育・保育系の短大では同種の取組が見られるが、この取組はレベルが高く、地域から大きく支持されていること」などが挙げられています。本取組に対し文部科学省より十分な予算も付きました。

採択の発表以降、たくさんの方々にお祝いと励ましのお言葉をいただきました。今後とも、より充実した舞台をご覧いただけるよう努力して参ります。ありがとうございます。

「にいみこどもフェスタ」は平成16年度特色ある大学教育支援プログラムに採択されました

新見公立短期大学 幼児教育学科 第14回表現発表会



まなび広場にいみ大ホール

にいみこどもフェスタ 2005

入場無料

午前10時30分～12時30分
午後2時30分～4時30分
(2回公演 どちらも30分前開場)

2005年2月26日(土)

プログラム:
・音楽遊びミュージカル「ぼんべんじん!」
・劇「昔々のお話を歌おう!」
・劇「十二支のはじまり」
・劇「動物ダンス」(短歌)元歌!
・ミュージカル「お遊戯」

親子室もあります。ライブ配信でもお楽しみいただけます。(<http://www.nimi-c.ac.jp/index.html>)
主催 新見市・新見市教育委員会 共催 新見公立短期大学 (0867-72-0634)



発行 新見公立短期大学 (岡山県新見市西方一二六三の二) ☎0867-7211-0634

編集 学報編集委員会

地域福祉学科

高大連携授業プログラム

岩崎竹彦

地域福祉学科は、岡山県共生高等学校との高大連携授業を今年度から開始した。授業内容は、「文化としての福祉と介護」をメインテーマにすえた本学科設立・教育理念を前面に押し出したもので、普通科コミュニケーション（福祉コース）専攻の生徒十九人が受講した。

本学科は受験雑誌等でユニークな教育理念とそれに基づくカリキュラムをもつ介護福祉養成校との評価を受けているが、高大連携授業はそれをアピールする絶好の機会である。非公式だが、他府県の高専学校から依頼もあり、地域福祉学科では今後積極的に高大連携授業を推進していきたいと考えている。

「福祉と文化」

日時	講義名	担当者
10月22日(金)	福祉と文化、そして心理学	村中 哲夫
10月29日(金)	音の文化	吉村 淳子
11月 5日(金)	老人と子どもの文化	岩崎 竹彦
11月12日(金)	社会福祉の法制度	伊藤 博康

「在宅介護」

日時	講義名	担当者
12月 1日(木)	在宅介護（講義）	松本百合美
12月 3日(金)	在宅介護（講義）	松本百合美
12月 8日(木)	在宅介護（移動演習）	松本百合美
12月10日(金)	在宅介護（洗髪演習）	井関 智美
12月15日(木)	在宅介護（入浴演習）	藤井 敬美



施設ボランティア活動

藤井敬美

地域福祉学科では、毎年主に実習施設から学生ボランティアのご案内をいただき、沢山の学生たちがボランティア活動に参加しています。平成十六年度も十二月までの活動が十二回、六十九名の参加となっています。施設でのボランティア活動は、介護対象者と触れ合うよい機会となり沢山の学びをいただいております。行事に参加された利用者の方々の表情は生き生きしており、利用者により親しくなることができた、利用者の理解が深まった、利用者とともに楽しそうにされるのを見て介護の仕事にやりがいを感じたなど、ボランティアに参加した学生もまた、表情を輝かせて帰ってきます。こうしたボランティア活動が、学生達に

とって学びの場となると同時に、地域貢献につながっていくよう教員も努力していきたいと感じています。

出身高校紹介コーナー

第一回

*鳥根県立益田高等学校

一年次生 向井 寛子

「文武両道」これが私の高校の教訓です。進学校ですが、大半の生徒が部活動に所属し、放課後一緒に汗を流しています。全国大会やインターハイに参加する部活も多く、私の所属していた柔道部もその中のひとつで、高校生活の思い出はほとんど柔道であり、柔道で学んだことが今の私の原動力になっていることを実感します。

一日とって無駄な日が無いほど充実した三年間で、益校で得た思い出や友は一生の宝です。そして、卒業しても足を運びたいくなるほど、心地よい場所であり、何より先生にとっても会いたい！と思うような高校は益校だけでしょう。益校は、全国に誇れる高校No.1！益校最高！

*鳥取県立由良育英高等学校

一年次生 赤井 麻美

私の学校は、部活動が盛んで、水泳部や陸上部が有名です。そのため、県外の中学校から入学してくる生徒も多く、学生寮があります。兵庫県などからも来るので、学校で関西弁

を聞くことができます。

水泳部があるために、学校のプールは三メートルの深さがあります。そのため、体育時間にはシンクロをしたりして楽しめます。

陸上部では、毎年「都大路」という駅伝に出場しているので、みんなで京都まで応援にも行きます。

また、卒業生に名探偵コナンの作者がおり、大会の応援のためにオリジナルの絵を描いてくれたりします。

*兵庫県立伊丹西高等学校

一年次生 安食 夢果

私の出身高校は、進学校でもなく、特別なところなんか無い平凡な高校です。しかし、生徒も先生も個性豊かで、熱血で、仲が良いということは自信を持って自慢できます。

関西のノリで進んでいく授業、羽目を外すほど盛り上がり、完全燃焼する行事、特に用事もなく職員室に遊びに行く生徒、生徒のことを真剣に考えてくれる先生、常に何か楽しいことが発見できる私の母校。

私は、そんな母校が大好きです。だから、卒業した今でも地元に戻ったときは、必ず遊びに行ってしまう。

私にとって、母校は思い出という宝物がいっぱい詰まっている宝箱のようなものです。これからも、こんな母校を大切にしていきたいと思えます。

保育実習を終えて

一年次生 楠 千佳

私は保育所実習で目標にしたい保育士さんに出会いました。その保育士さんは子どもたちからとても慕われていて、また他の保育士さんからも慕われていました。何かあれば、その保育士さんに相談するという光景もよく見られました。

その保育士さんの、排泄、食事など全ての園での生活に対する子どもへの援助は見習いたいものばかりでした。子どもから話しかければ、一人一人の話をしっかりと聞いてあげ、何か声かけをする時も、子どもがやる気を起こすような声かけをしていました。

食事の時は、子どもたちが苦手な食べ物を少しでも食べられるように食べ物を小さく切ってあげたり、声かけをしたりしていました。

遊びの面でも、子どもたちが退屈をしないような工夫をしていて、遊びの流れも目を見張るものでした。

私は、十日間という短い間でしたが、その保育士さんの行動を見続け、このような保育士になりたいと思うようになりました。何をすることも子どもを中心に考えていて、子どもにとっても慕われている、このような保育士になりたいと思いました。私が卒業して、保育士の

仕事に就いた時、今回出会った保育士さんのようになれるよう、たくさん勉強しなければいけないと思いました。今回の実習で目標となる先生に出会う事ができ、たくさん先生の失敗もして、嫌になる事もあったけれど、よい実習ができたと思いました。

中四国保育学生研究大会に出演して
第二十四期生安達総合研究

平成十六年十二月九日、十日の二日間にわたって、愛媛県宇和島市の南予文化会館で中四国保育学生研究大会が開催されました。新見短大を代表して、第二十四期生安達総合研究グループがその大会に出演させていただきました。

一日目の午前が論文発表、その日の午後と二日目が実技発表となっており、私たちの出演は一日目の最後でした。そこで、私たちはミュージカル「西遊記」を演じました。

当日、着替えやメイクを済ませて、いよいよ本番のときがやって参りました。ドラの音と共に緞帳が上がり、照明と音楽の不気味さに会場がどよめきました。私たちの緊張もそのどよめきに合わせて、最高潮に達しました。しかし、今まで保育所やまなび広場で練習を積み重ねてきたため、無事に終えることが出来ました。予想以上の会場の協力も得ることが出来、大変な満足感を得る事が出来ました。また、クラス全員からの思いがけ

ないビデオレターには、心から感動しました。そして、みんなの温かさを改めて感じる事が出来ました。その後、学校に戻ってからみんなにビデオを見てもらったのですが、具体的に褒めてくれたり、感動してもらえて、とても嬉しかったです。

二月にまなびで二回目の大公演があるのですが、その時には、今回以上に感動してもらえよう、これから頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、このミュージカルを演じるにあたって協力して下さいました方々に御礼申し上げます。

中四国保育学生研究発表会を鑑賞して
第二十四期生安達総合研究

私たちは中四国保育学生研究発表会の中で、他の学生の研究発表を鑑賞し、二つの学校の発表に注目しました。

初めに、某短大の論文発表です。それは、けんか時における保育者の対応方法についての発表でした。某短大の考察では、保育者の価値観を押し付ける対応になっているように感じました。授業で学んだ事を生かし、それに基づいて対応する事は間違っていないと私たちは思いますが、子どもに保育者の考えを押し付けるような形で対処するのは間違っているのではないかと思ひ、納得出来ませんでした。私たちが考える保育者の対応方法は、まず子

どもの気持ちを聞き、大切にしながら、子どもたちの力で解決出来るように見守っていく事が良い方法ではないかと考えます。

次に、K短大の実技発表です。それは、『たぬきつねずみとさつまいも』という劇でした。それぞれのキャラクターがしっかりと表現されており、とてもおもしろく、引き込まれました。とても参考になりました。私たちがこのように観客を引き込む事が出来るようになります。私たちは中四国保育学生研究発表会を通して、多くの事を学ぶ事が出来ました。このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。



絵・大野 加奈子

看護学科

援助技術論演習(指導技術)を行って

二年次生

小山千沙・田中紀子
中田 優・東美智子
渡邊教授



最近では若者を含めて、幅広い年齢層で骨粗鬆症が問題になっています。私たちが実習で受け持たせていただいた患者さんの中にも、骨粗鬆症で骨折され入院となった方がたくさんおられました。命に直接かわる病気ではないのですが、高齢者にとっては寝たきりにつながる問題でもあります。そこで私たちは今回、楽しく元気に生活するために、役立つ骨

粗鬆症の予防について健康教室をすることになりました。

実際に新見市に住んでおられる方五人に学生会館に来ていただいた。骨の役割や骨粗鬆症になる原因、その予防法などについて行いました。また、まだまだ私たちの指導の技術不足で、高齢者の方のペースにまで気が回らず、お話をじっくり聞くことができなかったという反省も出ました。骨密度のチェックを行ってみたいのですが、自分ではまだまだ元気だと思われていた方も自分の骨の状態を知って真剣に話を聞いてくださったのは印象的でした。最後に骨を丈夫にする料理のレシピを見た高齢者の方々が「実際に作ってみよう」といってくださり、役に立つことができたのではないかと思います。

看護学セミナー(NCS)の開催

二年次生 嘉藤 恵

十一月五日、看護学科の恒例行事であるNCSを開催しました。第十回となる今年は「命を守り、育む看護職の生命の誕生、そして成長を支える」をテーマに、助産師、看護師、保健師の三名の先生方を迎え、それぞれの立場から母子看護について講演していただきました。

一年生は看護の専門科目の授業が始まっていないため、テーマや内容が難しくないと不安でした。しかし、講師の先生方が自宅出産の様子やNICUでの看護場面の写真、また保健活動の資料を用いて話してく

くださったので、大変分かりやすく、関心をもって聞くことができました。質疑応答では、多くの学生から積極的な発言があり、シンポジウムを盛会に終えることができました。NCSは戴帽式の代わりとして行っていますが、一年生だけでなく、毎年参加する毎に、看護への興味が深まる会になっていくように感じました。



基礎実習Ⅰを終えて

一年次生 原 恵美

私たち、一年生は十一月二十八日から十二月二日、初めての臨地実習の基礎看護学実習Ⅰを行い、患者さんの大きな懐に飛び込み学ばせていただいた。

朝ばやに 習う技術の むずかしさ
ふるいたたせる 二十歳の詩集
これは実習先で出会った患者さんが、学生へのエールを込め詠んでくださった一首だ。私たちの四日間が凝縮されている。

私はこの実習を通して患者さんから「考える」ことの重要性を教えられた。学内実習では自分なりに模擬患者を想定して練習してきたつもりだった。しかし、臨床現場に立ち、打ちのめされた。当然のことだが、患者さんは、私たちと同じ人間で、感情の表し方、性格、考え方、生活習慣も個性がある。また、疾患はマニュアルどおりに展開していくわけではない。学内で学習した基礎的な方法を応用し、患者さんが安全安楽に心地良く過ごせるケアを見いださなければならぬ。それには「考える」力が必要なのだ。考える作業を怠ってしまえば、行動へ導くこともできず、主体を見る視点がズレ、患者さんのニーズへの適切なケアにならない。

考える習慣は、私たちが学内で学ぶ講義や演習の中でも実践できる。学生である貴重な今の時期に、じっくりと自分と向き合い、「考える」習慣を身につけておきたい。

今後も多面的な人間理解や看護を深める中で、壁にぶつかることもあろう。しかし、一歩ずつを大切に、確実に進んでいきたい。患者さんから受け取ったエールを、改めてかみしめ、人間と看護への探求を続けて行こうと胸に刻んだ。

地域看護学専攻科

専攻科第一期生一年を振り返って
地域看護学専攻科長 福岡悦子

暦の上では間もなく立春です。今年の新見は例年になく雪が少ないと言われていますが、一月五日、二十一日の出勤時に高梁を過ぎたあたりから白一色に染まった畑や屋根、山の木々に積もった雪景色の美しさにとっても感動しました。

一年間での保健師教育は超過密スケジュールです。講義、(演習)、グループワークを中心として、哲多町での年間を通した実習をはじめ保健所・市町村実習、健康教育、多くの課題レポート、試験、卒業研究等で学生は息つく間もありませんでした。しかし、「学生だからできる」ということを実感しました。皆大変よく頑張ったと感心しています。

一月二十八日(金)第一期生の公衆衛生看護学研究(いわゆる卒論)の発表会が他学科の先生のご参加をいただき、無事に終了することができ大変嬉しく思っています。昨年の五月連休明けに各自興味ある研究テーマを選ぶことでスタートした研究は、主にアンケート調査と聞き取り調査でしたが、文献研究を選んだ学生もいました。文献検索、アンケート調査票作成、調査のための訪問、データ入力、SPSSを使用した分析、論文執筆へと進んでいきま



した。本格的な研究は初めての学生もあり、最初は大変でした。各自担当教員との話し合い、意見の交換で何度も何度も修正を加えていくうちに、だんだんと良くなっていくプロセスが経験できたことでしよう。保健師に求められる能力を考えた時、この研究の経験は将来きつと役立つことと確信しています。残された目標は、国家試験全員合格を目指して一丸となつて頑張っていくことです。

同窓会のコーナー

香川県立保健医療大学看護学科
看護学科第三期生 辻 よしみ



先日、古城先生と学会でお会いすることができ、束の間ですが、「ほっと」する時間を持つことができました。短大を卒業し二十年。ふと気づくと今、自分が大学の教員をしています。私も学生にとつて、「ほっと」できるそんな存在になれるかなあと思い返した時間でした。とにかく、これからも色々な出会いを大切に、相田みつをさんの詩の「二生勉強、一生青春」をモットーに、私なりに成長していきたいと思っています。



絵・坂和 優



幼児教育学科第八期生同窓会開催

幼児教育学科八期生が七月十八日、十五年ぶりに新見に集まりました。一人一人の近況報告では、笑いあり、涙あり……。悩みもあるけれど、前向きに努力しながら生きていくことが伝わってきて、これぞ、新見短大の精神ではなかったかと思えました。滝口先生の「これからの人生で今日が一番若い日。今日を精一杯生きなさい！」という言葉を肝に銘じ、頑張ります！ またみんなの素敵な笑顔に会える日を楽しみに、一日一日を大切にしていきたいと思えます。

幼児教育学科第二十三期生同窓会開催

第一回幼2の日 幹事

平成十六年の春、新見公立短期大学を巣立った卒業生のうち三十三名が同年八月十四日(幼2の日)、学生会館に集いました。恩師との再会も果たせ、一夜限りの楽しい時間はあつと言う間に過ぎていきました。幼2時代が思い出され、今に向き合い、明日への力が充電できた大切な日になったように思います。次の再会の日までみんな元気です。次の再会の日までみんな元気です。次の再会の日までみんな元気です。☆



平成十六年度 卒業研究テーマ一覧

【看護研究】看護学科

■専門基礎

指導教員 宇野丈夫

● 医業分業の導入が進展した環境での服薬自己管理における看護師の役割に関する考察 佐藤 綾里

● 性教育における性感感染症に対する知識と意識について 鈴木 友子

● 遺伝子診断とN短期大学の看護学科と幼児教育学科の遺伝子診断に対する意識を比較して 竹中 千紘

● 喫煙と禁煙インタビュー調査 三木 寿美

● 喫煙が胎児に及ぼす影響の妊婦と家族の認知度について 安田 彩

■基礎看護

指導教員 小野晴子・杉本幸枝・土井英子

● 高齢者の身だしなみに対する関心と化粧・整容・服装による心理的、社会的影響の考察 安藤ゆかり

● 患者との非言語的コミュニケーションと基礎看護学実習Iの事例を通して学んだこと 岡崎 明子

● 看護学生とA市市民の清潔行動の比較 岡本 聖子

● 転倒リスクと自立と転倒アセスメント・スコアシートの分析から 小野 未央

● 同胞が障害を持った兄弟をどう捉えているか 弟と共に歩む姉の思い 桔梗 理恵

● A町地域住民の血圧測定に関する意識アンケートと聞き取り調査から 下村 祥恵

● 看護援助に必要なインフォームド・コンセントと成人看護学実習で受け持った患者のプロセスレコードを通して 杉本由加里

者のプロセスレコードを通して

杉本由加里

● 看護学生の死・生のイメージに関する実態調査と臨床実習経験の有無別にみる三年生と一年生の意識の比較 竹中 友理

● 末期癌患者の病名告知と余命告知に関する意識調査 玉井 沙苗

● 看取りにおける家族の心理と死別体験をした家族へのインタビューを通して 坪井 奈美

● 看護師の病院内における感染対策の実態調査 永尾 理恵

● 清拭後の水分を乾布で拭き取ることの効果と高齢者と若年者での皮膚温の変化を比較して 長澤 悦子

● 勤務体制の違いによる看護職者の疲労度と二交替制と三交替制の疲労度の違い 西山 悠子

● 看護師の死のイメージと死ぬということについて 松林さやか

● 炭酸泉を用いた足浴と一般入浴剤を用いた足浴が生体に及ぼす影響 山下 久美

● ベットポトル湯たんぽとゴム製湯たんぽの比較研究 柳田 大輔

■成人看護

指導教員 逸見英枝・金山弘代・真壁幸子

● 患者の病気の受けとめと意志決定時の看護者の関わりとインタビューを通して 白神知子・太田浩子

● 回想法による高齢者の人生満足度の変化について Heightの構造的ライフレビューを活用して 池田さやか

● 家族介護者にとっての在宅介護のメリット・デメリットと在宅介護を経験した祖母へのインタビューを通して 石橋 麻衣

● 糖尿病患者に対するフットケアの指導の効果と受け持ち患者の事例を通して 猪俣 彩

● 終末期がん患者の家族の心理に関する研究と手記の分析をおして 内野 香織

● 女性の腹圧性尿失禁の現状と看護 セラピーによる癒しの効果とセラピーを行う上で大切なこと 浦出 紗希

● VDT作業者の健康問題とその対処方法の一考察 北村 直子

● 末期癌患者のスピリチュアルケアに関する研究 栗本麻衣子

● 在宅ケアにおける介護者の介護負担についてと今後の訪問看護のあり方について 茂山 優子

● 看護学生を対象にした月経周期異常に対する意識調査 宍道 綾子

● 性教育の現状と課題の一考察と女子学生へのアンケート調査より 神領 茜

● 訪問看護師が行う判断の特徴 高橋 和子

● がん患者の家族への援助と告知から終末期を通して妻が感じていたことより 平本 好美

● 在宅家族介護者に対する援助と十五年間在宅療養者を介護してきた家族へのインタビューを通して 福本 章子

● 慢性疾患患者への効果的な患者指導とは Nさんへの指導についてプロセスレコードを用いて考える 古谷 尚美

● 婦人科外来受診時における女性の心理と看護と受診しやすい婦人科外装の環境とは 前川 典子

● 在宅における死後のケアと看護の役割についての研究 松本 佳子

● 看護観と介護観について考える成人看護学実習・老年看護学実習を振り返る 溝渕 京子

● 終末期におけるスピリチュアルケア

ホスピスとビハーラからの一考察

安野 里香

●中高生の性意識、性行動とピル服用

保村 有美

●乳がん患者会の効果について

山本 佳世

●患者の不安な気持ちに気づかないまま一方的に関わってしまった場面の考察

吉井 尚美

老年看護

指導教員 古城幸子・木下香織

●痴呆高齢者の望ましい生活空間について

小田ひとみ

●健康と長生きの源とは何か

迫 麻美子

●在宅高齢者と施設高齢者の比較

宝田真美子

●高齢者施設におけるユニットケアの実際とその展望

則清かおり

●家族の中で孤立した男性高齢者の理解と家族の関わり

堀本 宏子

●パリエーションを通して考える痴呆高齢者とのコミュニケーション方法

森山 仁美

●施設サービスを利用する高齢者の満足度

山名 茜

小児看護

指導教員 上山和子

●小児医療の現状と小児看護の役割

井上 知子

●気管支喘息の子どものもつ母親の不安の実態

津和野仁子

●長期療養中の患児に遊びを取り入れる

効果と設定保育での遊びからの検討

藤原 健太

●慢性期の疾患を持つ児の入院がきょうだいへ与える影響

前田 梨恵

母性看護

指導教員 貞岡美伸・岡宏美

●世代による育児の変化と祖父祖母級の効果

河村真由美

●出産直後の早期接触が母子の愛着形成に及ぼす影響

近藤 由佳

●夫立ち会い分娩による産婦への影響

平田 晶奈

●医療従事者のタッチのイメージとタッチが与える患者への精神的影響

山岡千奈津

●少子化に関する看護学生の意識について

山田 良子

精神看護

指導教員 塚本千恵子

●過去の体験がその後の人生に与える影響

横尾 知佳

●知的障害者更生入所施設での看護師のマンパワーについて

有澤 緑

●児童虐待とその援助と対応

岡 真弓

●信頼関係から始まる看護における癒し

奥 奈緒美

地域看護

指導教員 栗本一美

●訪問看護師の役割について

石田 望

●在宅介護者の自由な時間について

小島 美保

●デイサービス利用者の満足度に関する研究

辻 雄大

●障害をもつ子どもの母親の心理変化と地域の看護職の役割

名越 綾

●高齢者に快適な住まいの在り方とは

良倉 裕美

総合研究 幼児教育学科

社会福祉

指導教員 東 俊一

●地域における子育て支援

赤木 由佳

●統合保育実践に対する支援体制の検討

阿部 誠子

●児童虐待の早期発見・予防に関する保育士の意識調査

長野 未希

●グループホームに入居する知的障害者の生活に関する評価

森本まり子

教育学

指導教員 矢藤誠慈郎

●児童虐待防止ネットワークの実態と課題

崎津 春佳

●在外教育施設の現状と課題

橋本 奈実

●家庭・家族の変化と少年犯罪・非行の動向との関係に関する考察

林 佳奈美

●幼児期の性教育における意義と課題

平川 志穂

乳幼児保育

指導教員 三好年江

●保育現場における食育に関する研究

佐藤利江子

●「連携」概念を手がかりに

森崎 香織

たちとの一体感を目指して

押田紗季・小浦慈子・坂本江里

●音楽教育

山中 文

●音楽における情動の問題

鶴野順平・太田真由・山下光代

●幼児テレビ番組「おかあさんといっしょ」の制作の特色について

江口 知世

造形表現

指導教員 金山和彦

●仕掛け絵本に関する一考察

大野加奈子・木村政絵・清家千束

●関係障害臨床からみた母子関係

石橋由美

●笑いのある保育

石井 薫

発達心理学

指導教員 石橋由美

●現代社会における父子家庭の困難さ

坂本 智佳

●保育者の成長

田邊亜緒衣

●ADHDの理解と援助

成宗 明美

●子どものための舞踊作品の制作

片山啓子

幼児体育・身体表現

指導教員 片山啓子

●子どものための舞踊作品の制作

大西淳子・尾関希望・掛 沙織

●ミュージカル「西遊記」の制作

構司 彩・鈴木 清・寶坂幸枝

● 幼児教育

指導教員 高月教恵

- 幼児の数理解について 岩岡 美幸
- 乳幼児のメディア生活とテレビを中心とする 植田 京子
- ほめ方・叱り方について保育園・幼稚園での事例を通して 河原 友美
- 絵本の読み聞かせと母子の読み聞かせ場面を中心にして 黒田梨津子
- けんかに対する保育者の援助と年齢別にみた事例を通して 杉谷 尚子
- 子ども理解と保育者のあり方について 倉橋惣三理論の視点から 塚田裕美子

【地域福祉研究】地域福祉学科

指導教員 岩崎竹彦

- 歪曲された歴史と大東亜戦争の真実 高橋 葵

指導教員 松本百合美

- ホスピスにおける介護職の担うべき役割を考えるホスピスで働く看護師、介護職の意識調査から 大石由季子
- 利用者主体の介護とは何かを考える介護保険におけるケアプランと作成者、利用者に対する聞き取り調査の結果から 中田まり子

指導教員 村中哲夫

- ストレスと自画像と身体と心のかかわりから 岸田ゆきの
- 断章、心のバリアフリー 谷部 有彦
- ケアというケアと介護のアイデンティティを求めて 中田 敦子

指導教員 吉村淳子

- 高齢者施設における介護福祉士の役割と音楽療法場面を通して 谷中 仁美

【公衆衛生看護研究】

地域看護学専攻科

指導教員 福岡悦子

- 喫煙者・禁煙者・非喫煙者の生活習慣の

平成 16 年度 進路状況

(2月14日現在)

学科	内訳	卒業者数 (人)	専門職 (人)	一般職 (人)	進学 (人)
看護 [23期生]		71	56 (1)	0	13 (1)
幼児教育 [24期生]		51	40 (9)	0	2
地域福祉 [8期生]		56	45	0	11
地域看護専攻科 [1期生]		15	14 (1)	0	0

() 内は、希望しているが決定していない人数

- 意識調査
 - A企業の分煙による労働者の喫煙行動の変化と健康増進法の有効性 高山亜希子
 - A市立小学校・中学校における教職員の喫煙状況とその対策 中藤 香織
 - A町における保護者の歯科保健に関する意識・行動と子どもの歯罹患状況について 西村 友江
- 産業保健分野の歯科保健指導のあり方と生活習慣と歯科受診行動の実態調査を通して 山本佳代子
- 指導教員 金山時恵
 - 母子クラブの現状と課題とアンケート調査より 赤田 美佳
 - 生きがいデイサービス利用者の現状についてと利用者のアンケートを通して保健師の役割を考える 岩田奈緒美
- 事後指導のあり方と基本健康診査と結果説明会に対する意識調査に基づいて 駒居 貴子
- 学童期における生活習慣の指導についてと小学生の生活習慣の実態調査より 戸田 康治
- 学童期の食生活とむし歯の関連性についてとアンケート調査に基づいて 中園 涼子
- 指導教員 矢庭さゆり
 - 認知症(痴呆性)高齢者に対する虐待と現状と問題解決のための課題 上山 智子
 - 要介護認定者の生活と保健師の役割とサービス利用者と未利用者の調査を通して 木原 麻悠
 - 介護保険制度下における保健師の役割と課題と住宅改修・福祉用具利用の事例研究を通して 佐野 仁美
 - 日本における高齢者虐待の現状と課題と専門職としての役割を考える 住田 麻季
 - 在宅で服薬管理を必要とする高齢者への保健師への役割とA町における在宅高齢者からの聞き取り調査を通して 見座千佳子



絵・坂和 優

昨年、国内外を問わず災害が多発し、多くの人々が犠牲になり、いまだに安定した暮らしを取り戻せていない現状にあります。皆様方にはお変わりはありませんでしたか？被災地の方々の早期の復興を心からお祈りしております。

そのような中、本学幼児教育学科の地域と創るにのみこどもフエスタが平成十六年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されるという輝かしい出来事がありました。そして早いもので、地域看護学専攻科の第一期生を送り出す春がやってきました。四月には、各地域に巣立ちそれぞれの進路に向かい進んでいきます。これから次々と短大から巣立つていく学生たちにとって、ふつと原点に立ち返ることの出来る……そんな短大であり続けたいと願っています。

(矢庭)

編集委員

委員長 委員

- 原 信子
- 古 城 幸 圭
- 山 内 淳 一
- 吉 村 俊 子
- 東 庭 俊 一
- 矢 庭 さ ゆ り
- 神 原 光

